

クラス番号	626	担当教員名	小松 理佐子
テーマ	人口減少時代の地域福祉システム－生活の質を問う－		
著書・論文 研究課題等	『対論 社会福祉学（第2巻）社会福祉政策』（共）中央法規出版、2012年 「過疎地域における地域包括ケアシステムの構築の可能性」（単）（『日本福祉大学社会福祉論集 第134号』2016年） 「生活支援サービスとソーシャル・キャピタル」（単）（『ソーシャルワーク研究』43-2）2017年 『地域福祉の現状と課題』（共）放送大学教育振興会、2018年 『『地域共生社会』の理念と展望』（単）『『地域問題』96号、1-6』2019年		

ゼミナール概要

キーワード：人口減少社会、生活の質、限界集落、地域再生、まちづくり協議会

目的、内容、方法等：

日本各地で、人口減少が進行しはじめています。「限界集落」と呼ばれる地域などでは、集落の機能の維持が困難になり、住み慣れた自宅で暮らし続けたいと思ってもそれができなくなりつつある地域が見られるようになっていきます。また、都市部でも、かつての商店街が「シャッター通り」となり、「まち中過疎」と呼ばれるような状況が生まれています。こうした状況の中で、今後の人口減少を見越して、中心部に都市機能を集約させるコンパクトシティ構想に取り組む自治体が増えています。

果たして、私たちの生活にとって望ましい地域は、どのようなものでしょうか。このゼミでは、生活の質（QOL）の視点から、人口減少社会における地域のあり方と望ましい生活を考えます。「限界集落」と呼ばれる地域の中には、人々が知恵を出し合い、新しい地域づくりをする芽もみられています。こうした地域をみると、人口を集約することが最良の解決策とは言い切れないようにも思います。

そこで、ゼミでは、人口減少が進行する地域で進められている地域再生の取り組みを学びながら、このテーマについて考えてみたいと思います。ゼミの研究のフィールドとして、岐阜県高山市を予定しています。高山市の大学連携センターの主催で「飛騨高山学会」が開催されます。4年次には、3年次のフィールドワークの成果を「飛騨高山学会」で発表するように計画しています。

授業計画：

＊3年次

前期 人口減少の実態と課題について、文献・資料をもとに学習します。

後期 人口減少が進行する地域の実践、特にまちづくり協議会の役割について学習します。
夏休みから後期にかけて、岐阜県高山市をフィールドにして進めます。

＊4年次

前期 卒業論文のための研究を進め、卒業論文の執筆に取り組みます。

後期 卒業論文の完成させた後、国家試験対策の学習をします。

担当教員からのメッセージ

ゼミのモットーは、「良く遊び、良く学ぶ」。

人口減少が進む地域を支える、夢と行動力にあふれた人材を育てたいと思っています。卒業後、出身地に帰って地域を支えたいという熱意のある人を歓迎します。